

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

スクミリンゴガイの発生予測と防除徹底について

前年12月～当年2月までの平均気温をもとに、本年の本種の越冬量予測を行ったところ、越冬生貝率は50%程度と予想されます。また、早期水稻では、すでに移植苗に食害が発生した圃場を認めています。ついては、本種の防除徹底について、生産者への指導をお願いします。

記

1. スクミリンゴガイの越冬量予測と発生状況

(1) 令和6年(2024年)12月～令和7年(2025年)2月の佐賀市の平均気温は6.3℃(平年7.4℃(10年平均))であり、水田内での越冬生貝率は50%程度と推定される。

※本種の春期の越冬生貝率は、前年12月～当年2月までの平均気温と正の相関が認められており、単回帰分析により予測が可能。

(2) 5月22日に実施した早期水稻における調査結果では、1㎡あたりの平均生息数は3.3頭で、平年並(3.0頭(令和2～6年の5か年平均値))の発生である。また、一部の圃場では、本種による移植苗の食害を認めた。

(3) 以上のことから、山間早植え水稻及びこれから移植時期を迎える平坦部の普通期水稻において本種の被害が発生するおそれがある。

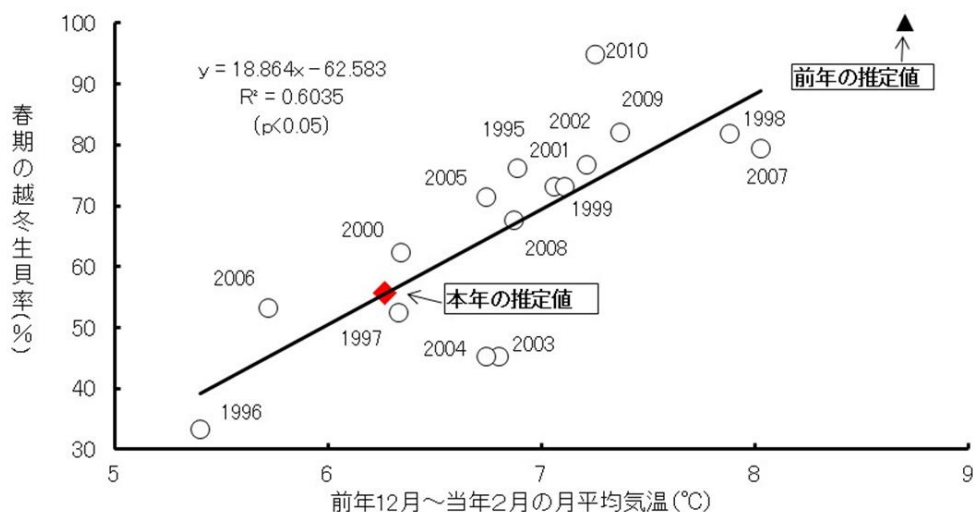


図1 水田内でのスクミリンゴガイの越冬生貝率と冬期の平均気温との関係

○: 1995～2010年の実測値(佐賀市の気温と、佐賀市内の同一水田における越冬生貝率。水田の越冬調査は2010年で終了)。
◆: 2024年12月～2025年2月の気温を用いて上記の関係式から推定した本年(2025年)春期の越冬生貝率。
▲: 2023年12月～2024年2月の気温を用いて上記の関係式から推定した前年(2024年)春期の越冬生貝率。

2. 防除対策

(1) 田植え前まで

- ①排水路の水面上に出口がくるようにし、貝の水田への侵入を防止する。
- ②揚水ポンプ等からの侵入を防ぐため、入水時から田植え後3週間まで、取水口および排水口に9mm目合い程度のネットや金網を設置する。
- ③降雨などで浸水しやすいような水田では、水路側の畦を高くして侵入防止に努める。
- ④中・成苗を移植し、可能であれば苗の移植時期を早進化する。
- ⑤圃場をよく観察し、本種の発生を認めたら田植え後の対策を徹底する。

(2) 田植後

- ①水深1cm程度の浅水管理とする。
- ②浅水管理を容易にするため作溝をする。また、溝に集まった本貝を捕獲する。
- ③メタアルデヒド剤、チオシクラム剤等の登録薬剤を処理する。

【メタアルデヒド粒剤の使用上の留意点】

- ①は種または移植後に本種を確認したら、直ちに散布する。
- ②散布後7日間は湛水状態を維持し、落水やかけ流しはしないこと。
- ③本剤の残効は深水管理で短くなる傾向が認められるため、処理後は浅水管理等の耕種的防除と組み合わせる。
- ④1回目の散布後も発生状況に留意し、必要に応じて追加散布する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

